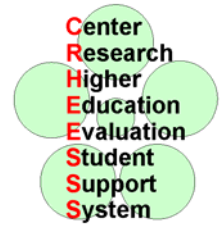


週刊センターニュース No.120



第120号(2006年7月31日) 毎週月曜日発行
発行: 金沢大学 大学教育開発・支援センター
URL: http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou_rche/index.htm

○●○ 共同学習会のご案内 ○●○

日時: 第125回 日時: 8月7日(月) 16:30~18:00

場所: 角間キャンパス総合教育棟2階大会議室

テーマ: 「共通教育科目の受講者調整の負担解消について考えてみませんか?」

発表者: 押上 睦 (共通教育室共通教育学務係)

趣旨: 共通教育科目は、専門科目と異なり、全学部に開放されている科目である。授業科目によっては、受講希望者が集中し、受講者調整が行われ、教員・学生の負担となることがあります。優先受講票制度は、このような負担を解消するためにつくられた制度です。今回は、他大学の取り組みと比較しながら、優先受講票制度の問題点を指摘するとともに、教員・学生の負担解消するような新たな受講システムを提案します。

○●○MEET 開設記念シンポジウム「大学教育の情報化、そのフロントライン」

参加報告 ○●○

6月14日(水)に東京大学弥生講堂一条ホールで開催された標記シンポジウムに参加した。Webページ(<http://www.utmeet.jp/about/index.html>)には「MEETとは東京大学 大学総合教育研究センター マイクロソフト先進教育環境寄附研究部門の愛称です。英語名称であるMicrosoft chair of Educational Environment and Technologyの頭文字をとったものです。「高等教育の未来との出会い」というメッセージを込めています。」とあり、今回のシンポジウムはこの部門開設記念と東京大学大学総合教育センター創設10周年記念を合わせて開催されたものである。当日のプログラムについては<http://www.utmeet.jp/events/index.html>を参照していただくとして、ここでは、TabletPCに関する講演、報告について紹介させていただく。TabletPCと聞いてすぐにイメージ出来る方はまだまだ少数かもしれない。ノートPCの画面が反転し、その画面上に専用ペン(スタイラスペン)で直接入力出来るものである。片手にTabletPCを持ち、もう片方の手でペン操作するスタイルのため、従来は倉庫などでの在庫管理など立ったまま使う環境での利用が主であったが、近年、ペン入力の便利さや汎用性が認められ、教育界を始め、様々な分野で利用されるようになってきている。マイクロソフトもWindows XP Tablet PC Editionを用意し、普及を推進している。

当日の基調講演IIにおいて「TabletPCによる教育実践の現状と未来」というタイトルでRichard Anderson氏(University of Washington, Department of Computer Science and Engineering, Professor)がTabletPCを活用した授業進行について説明の後、学生の協力のもと、その場でデモンス

トレーションを行った。キーボードからの入力では難しい二次曲線や数式を書いたり、地図上での場所、経路を指示したり、似顔絵を描いたりする作業が行われた。学生が描いたそれらのデータは教師として Anderson 氏の PC に Classroom Presenter (<http://www.cs.washington.edu/education/dl/presenter/>) というソフトを通して転送され、全員で見たり、画面共有したりすることが可能であった。もちろん、機器操作を伴うことによる授業進行の遅れ、TabletPC、プロジェクター、無線LAN環境といった経済的負担増と言った問題はあるが、Anderson氏によるとTabletPC活用によるこのような双方向性授業は、特に<問題提示-解決>型の授業には非常に有効であるとのことであった。

引き続き行われた<事例報告II>「TabletPCを利用した教育ソフトウェアと活用事例」では、五十嵐健夫氏（東京大学大学院情報理工学系研究科助教授）と栗原一貴氏（東京大学大学院情報理工学系研究科博士課程）によるTabletPC活用ソフトウェアの紹介と、授業での実践事例の紹介が行われた。五十嵐氏の作成された各種ソフトウェア(<http://www-ui.is.s.u-tokyo.ac.jp/~takeo/index-j.html>)はペン操作により通常の授業で黒板に書くような感じで使うことができるものだけでなく、3D映像として回転させることの出来るものもあり、非常に興味深いものであった。また、栗原氏が作成された「ことだま」(<http://cgi.at.infoseek.co.jp/qurihara/cgi-bin/kotodama/>)は、現在公立の小中高校の一部で実際に先生方が授業用として使っているものであり、従来、写真、模造紙、黒板などを組み合わせて行っていた説明をTabletPCの画面上で実現するものである。

これだけでは、TabletPC活用の具体的なイメージはわからないかもしれないが、TabletPC活用が、新しい授業方法の一つとして非常に有効なものであることは確かである。なお、現在、大学教育開発・支援センターには一台TabletPCがあり、より具体的なデモをお見せすることも可能ですので、是非一度ご連絡いただければ幸いです。（文責 教育支援システム研究部門 堀井）

〇●〇「学習・研究環境に関するアンケート結果報告書」について 〇●〇

各部局の教授会等で周知されていることと思いますが、標記報告書が発行されました。学内限定ですが、ネット上で読むことができます。セクシャル・ハラスメントにしるアカデミック・ハラスメントにしる、学生・院生の学ぶ権利を侵害する、悪辣な行為です。また、公益通報者保護法をもちだすまでもなく、職場内でのハラスメント行為を相互に指摘することは、学習・研究環境を快適なものにするための義務と考えられます。当センターでは、従来よりFDの一環とも考え、共同学習会等でもとりあげてきましたが、報告書に書かれた事実を氷山の一角にしか過ぎないととらえて、今後とも、教育改善に向けた最低限の環境確保のために、ハラスメント防止に向けた活動を行ってまいります。

（文責 大学教育開発・支援センター長 青野 透）

〇●〇 FD等の資料提供に関するお願い 〇●〇

当センターでは、国内外を問わず、大学教育に関する資料の収集を行っております。各学部のFD資料などご寄贈いただければ幸いです。教職員の方々、ご協力をお願い致します。

また、本センター図書室に所蔵されています図書・資料の貸出・閲覧も可能ですので、是非ともご活用下さい。